

緑のセンターだより

公益財団法人 旭川市公園緑地協会 旭川市緑のセンター(相談所)

〒078-8327 旭川市神楽岡公園内 Tel 0166-65-5553 Fax 0166-65-5626

旭川市公園緑地協会ホームページ <http://www.asahikawa-park.or.jp>



No.161

発行:平成 28 年 8 月 1 日

講習会のご案内

(お申込み・受付は前月の 20 日から)

「観葉植物の寄せ植え」^教 ¥1,000

とき 平成 28 年 8 月 21 日(日)
午後 1:30~3:30 定員各 20 名
講師 緑のセンター相談員



「神楽岡公園-夏の自然観察会」

とき 平成 28 年 8 月 28 日(日)
午後 1:30~3:30 定員 20 名
講師 旭川みどり 21 の会代表 成田一芳さん

「ビオラと秋植え球根の寄せ植え」^教 ¥1,000

とき 平成 28 年 10 月 1 日(土)
午後 1:30~3:30 定員 20 名
講師 緑のセンター相談員



連続講座 最終3回目

「プランターで育てるイチゴ栽培講座」

・プランターに苗の定植

8月 20 日(土) 13:30~15:30

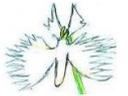


連続講座 最終3回目

「種を播いて夏のサギソウと翌春のパンジーを楽しむ講座」

・サギソウの冬越し準備とパンジーの鉢植え実習

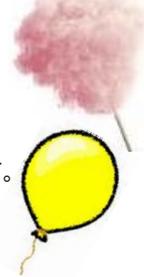
9月 25 日(日) 13:30~15:30



【緑のセンターまつり 2016】 8月 7 日(日) 10 時~16 時

- ・ブルーバリーの苗木をプレゼントします!!
- ・イベント…フラワービンゴゲーム、餅つき大会、神楽岡太鼓、よさこいソーラン
青空寄せ植え教室、無料ミニ押し花体験
- ・農産物市、園芸市、納涼ビアガーデン・売店
- ・縁日コーナー…お子さまに綿あめ、ポップコーン、ふうせんをプレゼント!
- ・花と緑の展示会(館内)…洋ラン、ミニ盆栽、山野草、石花盆景、押し花

緑のセンター
神楽岡公園



青空ヨガ



★プレゼントはなくなり次第終了です。



展示会のご案内

(初日は午後から、最終日は4時まで)

「押し花展」8月 7 日(日)~8月 28 日(日)



NEW 「秋の写真教室」



講師:道写協旭川支部長 馬場 和美さん

- ①写真の撮り方等の基本講義 10月 8 日(土)
 - ②公園内の撮影会 10月 15 日(土)
 - ③トリミング講習 10月 29 日(土)
- ※全3回出席可能な方 ☆13:30~15:30

【休館日のお知らせ】

4月~10月は第2・第4月曜日が休館日です(祝日の場合は翌日)

11月~3月は毎週月曜日が休館日です (")

〈園芸の基礎知識〉 根の断面と構造

～根の断面と働き、定根と不定根、根の成長点と分裂細胞～

■根の断面と働き

根の最外層は表皮で覆われ、その内部には皮層があります。皮層の最内層には内皮があって、木部と師部を含む中心柱を囲んでいます。根の先端には冠根で保護された根端分裂組織があり、根はここで成長を繰り返しています。根はふつう地中という変化が少ない環境下にあるため、水と無機養分の吸収・通道と植物体の支持というほとんどの植物が共通の働きを担っているためと考えられます。

■定根と不定根

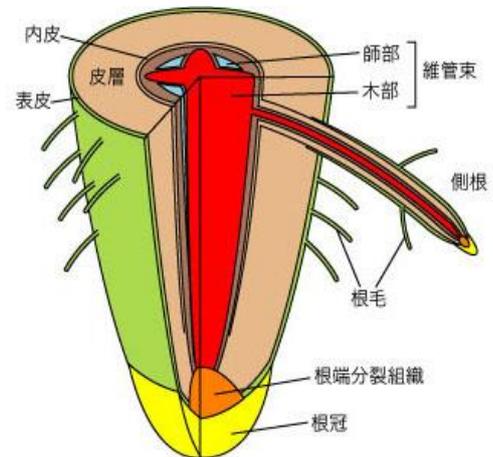
胚に形成された幼根は発達して初生根となり、やがて主根(直根)となって、そこから側根を生じます。このように幼根およびそこから由来した根を定根(種子根)ともいわれます。主根と側根からなる根系を主根型根系といいます。

地下茎から生じた根のように定根以外の根(幼根以外から生じた根)を不定根といいます。不定根は茎の節から生じることが多く、節根ともいわれます。単子葉植物では定根がほとんど発達せず、多数の節根が発達してひげ根型根系を形成します。

■根の成長点と分裂細胞

植物では根や茎の先端付近で細胞分裂がさかに行われています。最も細胞分裂の盛んな部分を成長点といい、根の先端には成長点を保護する根冠という組織があって、成長点で分裂した細胞は一つ一つがしだいに大きくなります。なお、トチノキ、サギソウなど根冠を欠く植物もあります。成長点付近では細胞が小さく、根の上の方にいくにしたがい大きくなります。

(参考資料:学研「植物の生態図鑑」、DIY「植え方から品種まで!ベランダガーデニングをおしゃれに見せるコツ」など)



一般的な根の内部構造

緑の相談 Q&A (35)

ラベンダーを殖やしたいのですが、挿し木で殖やすにはどうしたらよいのでしょうか?

ラベンダーは挿し木で殖やす方が一般的で簡単です。時期は5・6月と10月が適していますが、とくに植物が成長する春がお勧めです。まず挿し穂をつくりませんが、親株をよく見て、茎が緑色で太くしっかりとした枝を選びます。上から10～15cmくらいでカットします。下葉は取り除きます。茎の先端を斜めにカットして断面積を広げ、1～2時間吸水します。水気を切ったら発根促進剤を断面に塗るとよいでしょう。用土は挿し木専用のものやパーミキュライトや赤玉土(小粒)などの新しい清潔な用土をいいます。用土を鉢に入れて割箸などで穴をあけて植えます。水をやって完成ですが、水は挿し穂にかからないようにしましょう。

挿し穂は日光をあまり必要としません。風通しの良い日陰に置き、乾燥しないよう注意します。土には常に湿り気を与えます。1か月ほどで発根しますので、ポリポットなどに植替えします。新芽や腋芽が出るのが発根のサインです。



植物の病害虫

その161 「すす病」

1 寄生しやすい植物

すす病は、すす病菌(糸状菌というカビ)が植物の上で増殖することで発症します。主にナツツバキやシャクナゲ、イチイ、ツツジといった庭木や、リンゴやトマトなどの野菜、果物、草花や観葉植物、洋ランなどといった幅広い植物に寄生し、被害をもたらします。



すす病の被害

2 被害

糸状菌に寄生されることで、植物の葉や幹、枝が黒いすすで覆われたようになります。この症状は、植物の美しさを損なうだけでなく、光合成や葉の蒸散が妨げられてしまうので、成長を遅らせ、最悪の場合は枯死します。一年中発生する可能性があり、とくに4～9月の高温多湿の時期に繁殖しやすくなります。

3 生態

すす病菌は植物を養分とはせず、カイガラムシやアブラムシ、コナジラミ、ハダニといった害虫が植物に寄生し、栄養を吸汁する害虫の排泄物や分泌物、ほこりなどを栄養分として増殖します。そのため、すす病が発生している植物には、必ず何らかの害虫が寄生しています。

4 防除法

すす病の予防は、すす病菌の栄養源となる吸汁性害虫の発生を防ぐことが最も効果的です。害虫を発見したら、土壌施用粒剤を株元に散布します。薬剤名はアセフェート剤「商品名:オルトラン粒剤」、ニテンピラム剤「商品名:ベストガード粒剤」など、茎葉散布剤ではペルメトリン剤「商品名:アディオフロアブル」、MEP 剤「商品名:スミチオン乳剤」、ジノテフラン剤「商品名:スタークル顆粒水溶剤」などの殺虫剤を散布します。家庭園芸農薬では「商品名:ベニカXファインスプレー」も使用できます。果樹類の冬季間防除には、発芽前に多硫化カルシウム剤「商品名:石灰硫黄合剤」を散布します。カイガラムシは薬剤を散布してもそのまま葉についていることが多いので、歯ブラシなどでこすって落とすようにします。吸汁性害虫がよりつかないように日当たり、風通しの良い場所に移して多湿を防ぐことも有効です。また、混み入った葉や枝の剪定を日頃からこまめに行うことで、風通しを改善すると、病害虫の被害を軽減することができます。

すす病を発見した場合は、落葉した葉や見た目を損ねている部分は取り除き、薬剤名:ベノミル剤「商品名:ベンレート水和剤」、チオファネートメチル剤「トップジン M 水和剤」などの殺菌剤を散布します。各薬剤の作物の登録内容をよく確認して散布してください。

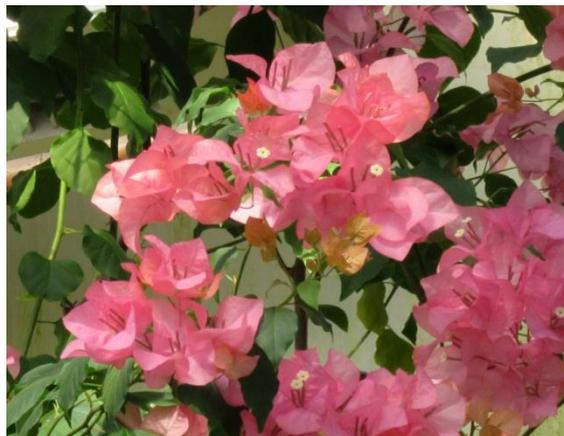
(参考資料:北海道病害虫防除提要)

ブーゲンビリアを楽しむ

オシロイバナ科 イカダカズラ属 南アメリカ原産 熱帯花木

ブーゲンビリアはブラジルを含む中南米が原産です。18世紀にフランスの学者がブラジルのリオデジャネイロで発見したそうですが、今年は8月にそのリオでオリンピックが開催されることもあって、普段に増してブーゲンビリアの花が店頭で目につきます。

一般的に花は一重咲きのピンクですが、赤や白、オレンジ色で鮮やかなもののほか八重咲きもあり、葉も艶やかで美しく、黄色の斑が入るものなど多彩で個性豊か。また、樹形は一般的につる性ですが最近では木立性のものが出回るなどさまざまな品種があります。



<買い求めた株を長く楽しむために>

ブーゲンビリアは5℃以下になると葉を落としてしまうので、冬期間は室内に取り込みますが、夏期間はできるだけ室内に置かず、戸外で丈夫に育てることをお勧めします。また、暗い所では花を落としてしまうので、日のあたる明るい所で管理します。

花は基本的に春と秋に2週間～1か月間も楽しむことができ、温度管理しだいでは冬も花をつけます。この開花期間の水やりは、乾燥させると花が落ちる原因になるので1日一回、鉢底から流れ出るだけたっぷりやります。しかし、花がない時はメリハリをつけて鉢土が乾いてから水やりするように、やや乾かし気味に管理します。肥料と水を多く与えるような育て方は、枝葉ばかり茂ってトゲが目立つようになり、花はほとんど咲かなくなってしまうので、肥料は生育期間に規定量の半分程度に止めます。

咲き終わった花は摘み取り、新しい芽の発生を促します。勢いが強く、長く伸びてしまった枝は付け根で切り落としますが、枝は剪定しない方が花付きは良くなります。コンパクトにしたいときは、室内に取り込む時に2～3節残して枝を切り戻して、アンドン仕立てで樹形を整えます。

植え替えは2年に一回、春に行います。鉢を大きくすると花が咲かなくなるので、なるべく前と同じ大きさの鉢を用意。用土には元肥をいれず、保水・排水性の良い土(赤玉7+腐葉土3)に植え付けます。

展示室の植物 (68)

マーマレードの木 (別名: オレンジ・マーマレードの木)

学名: *Streptosolen jamesonii* ナス科 ストレプトソレン属

原産地は南アフリカ。常緑低木で樹高は本来1～2mほどになるそうですが、枝は細く長く伸びることから緑センターの温室ではアンドン仕立ての鉢植えにして管理しています。



葉身は卵形で葉脈がハッキリとします。花は初夏から秋に咲き、漏斗状で3～4cmの長さの花が開きます。名前の由来は、マーマレードを作る時の色の変化と同じように花色が黄色からオレンジ色、赤色へと変化するところからといわれ、心が癒される優しい花です。増やし方は挿し木。5℃以上で生育は可能ですが開花に影響するので、冬は室内の暖かく日当たりの良い所で管理します。